

30周年の歴史を節目として
未来へ…

私たちは、国内唯一無二の
「ウェディングドレス生産の聖地」
を目指します。

ALPHA BLANCA

今回の新棟建設は単なる新築事業ではなく、若狭町からのご紹介によって若狭町上中瓜生にある築130年の古民家を移築し、会社の寮及び国内外の賓客や研修生の宿泊施設として幅広い階層への対処に応える空間へ蘇生させるというプロジェクトとして行って参りました。

この古民家はこれまでの130年の中で移築や茅葺から瓦屋根へなど様々な変化・変貌を遂げて活き続けてきましたが、この平成の時代にその流れは止まろうとしていました。

今回の古民家蘇生で更なる変貌と旧来ならではの雰囲気を持ち併せた建物として令和の時代へ続き始めます。

ALPHA BLANCA 30周年記念事業



VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL DORMITORY & GUEST ROOM

ALPHA BLANCA

福井県若狭町古民家移築蘇生 概要

20190520

古民家移築蘇生による企業寮・ゲストルーム
Dormitory, guest room by reviving old house Japan

設計監理統轄 株式会社アーバンガウス研究所
施工 株式会社 澤村

VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL DORMITORY & GUEST ROOM ALPHA BLANCA

福井県若狭町古民家移築蘇生
企画・設計・施工概要

目次

1 : VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL (新館)
福井県若狭町古民家移築蘇生 寮・ゲストルーム

2 : ブライダルの聖地 "WAKASA YUMI BLANCA LAND" 計画
ALPHA BLANCA ST 将来構想2020 及び 既存施設

3 : 若狭町古民家移築蘇生対象建築について
調査状況 及び 対象建築分析・解体・施工

1 : VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL (新館) 福井県若狭町古民家移築蘇生 寮・ゲストルーム

概要 :

福井県若狭町での企業の寮及び国内外来客の宿泊施設プロジェクト。良好未利用木造伝統的古民家を移築し、耐震性・断熱・防音・雪害対策等現代求められる居住性能を満たし蘇生する計画。工場スタッフ並びに来客の居住環境の向上としての福利厚生視点に加え、歴史性未来性を内外空間に表し地域に寄与する。企業の社会的責任として行った。

Corporate dormitory and guest room project in Wakasa-cho, Fukui Pref. Relocated and revived an unused good traditional old wood house. Residential performance meets earthquake resistance, heat insulation, sound proofing and snow damage measures. In addition to the welfare viewpoint, we express beautiful historicity and futurity in regional space. Implemented as Corporate Social Responsibility.

デザインの背景 :

ALPHA BLANCA社は、ブライダルドレスの製造拠点を1980年代からこの地に展開する。総合的な製造・研究・開発・アーカイブ・教育の国際拠点化を、ブライダルの聖地 “WAKASA YUMI BLANCA LAND” 計画として地域に根差し進行を探っている。

今回工場スタッフ寮並びに国内外のVIP・インターンのゲストルームを建設するにあたり、国際拠点化を進める上で有効な方法かつ企業の社会的責任として何が可能かを探った。宿泊・居住環境の向上としての福利厚生視点に加え、地域へ具体的に歴史性を有しつつ未来を志向する内外空間供給の提供を検討した。結果、町内の良好な未利用古民家を譲り受け移築・蘇生する事、オープンスペースを地域のポケットパークとする方針となつた。



VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL 2号館 東南より北西をアプローチテラス・庭園部を見る。

古民家移築蘇生による企業寮・ゲストルーム
Dormitory, guest room by reviving old house Japan



上段：2018年8月20日 下段：2019年5月21日 左端がブライダルドレスの製造拠点となる工場である。

- 1: 背景：ブライダルドレスの製造拠点を展開する施主は国際拠点化を進める上で、人口減少地域への未来貢献を考えた。楽しく働く、記憶に残る美しいまちづくりを行うことである。
- 2: 解決方法：築130年の古民家の豊かな空間を活かし、共同住宅新築確認申請下、現代機能・性能を移築蘇生した。アプローチテラス・庭園部を市民のポケットパークとした。
- 3: 結果：地域の歴史性を踏まえた居住性能・外部空間充実により、社内・地域行政に企業行動・評価が再認識された。

【所在地】 福井県三方上中郡若狭町北前川129号

【建築概要】 建築確認申請：社員寮新築工事 敷地面積：613.83m² 建築面積：154.85m² 延床面積：227.80m²
床面積：151.23m²（1階）75.45m²（2階） 構造：木造2階建（小屋組み等古民家木材使用）RCべた基礎

【外部仕上】 屋根・外壁：遮熱ガリバリュウム鋼板t=0.4/0.35mm横葺き 門型フレーム：アルミアルマイドパネル
軒裏：76mmケイ缶板 サッシ：アルミ樹脂複合サッシ 硝子：Low-e硝子 横：高機能雨樋 アプローチ床：磁器質タイル300*300土間コンクリート镘押さえ 犬走及び排水溝：5色豆砂利 庭園部：芝生
樹木（ジャカランダ ヒトツバタゴ 花梨 ヒイラギモクセイ サツキ）庭石配置 【内部仕上】 床：竹フローリング 壁・天井：AEP及び高機能壁紙（消臭撥水不燃） 古民家木材顕し部：SOP塗装（茅葺屋根時代部：紫色 切妻屋根時代部：藤色）

日本の伝統的古民家の改築は、全国で様々な試みがされている。ネイティブな日本人の試みだけでなく、異邦人の試みも多い。基本的に、オーナー利用・現地での改築・確認申請の対象外の同一機能である。今回は、共同住宅・ホテルとして不特定多数の利用者が対象である。隔離された個室群の住戸居住性能が、耐震性・遮熱・断熱・防音・雪害対策・防虫害対策等として求められた。これらから改築に伴い建築確認申請は、共同住宅新築工事とした。結果基礎は礎石をべた基礎に、真壁工法を大壁工法とした。すべての部材について旧素材の再利用可能性を平立断面に渡って現地・解体改築後とも検討した。結果1階では、約20cm角の旧大黒柱2本が維持され、他は新調した。2階の小屋組みの多くを維持し、白い室内にあって茅葺時代の墨色梁・柱は紫色に、切妻時代の白木の棟木は藤色とし、往時の記憶を抽象化した。庭園部では使用苦渋の梁をベンチとして設置した。庭園部・アプローチのオープンスペースは、工場関係者にも町にも開かれるポケットパークとなる。



築130年の古民家の豊かな空間を活かし、現代機能・性能を内外空間で探った。茅葺時代の墨色梁柱束、切妻時代の白木の棟木柱束が、複雑に展開していた。



2階の小屋組の維持を図り、白い室内にあって茅葺時代の墨色梁・柱は紫色に、切妻時代の白木の棟木は藤色とし、往時の記憶を抽象化した。古材のボリューム感・素材感が優しく応答する。



ALPHA BLANCA ST 西面全景眺望： 1994年グッドデザイン賞施設部門賞受賞の工場との関係を見る。寮の新旧館が連続して展開する。地域景観が樹木の成長とともに緑化されていく。



VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL 南全景



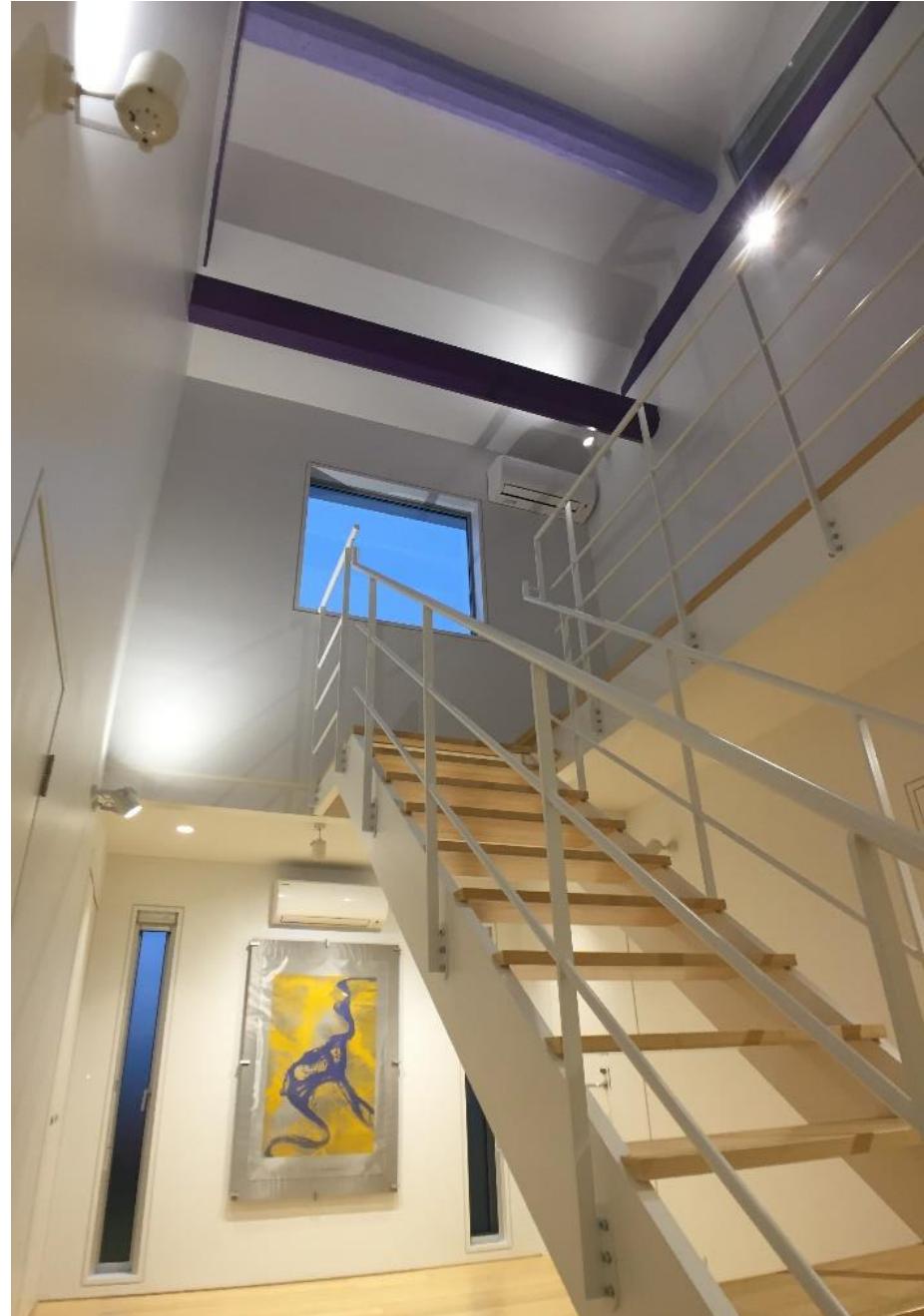
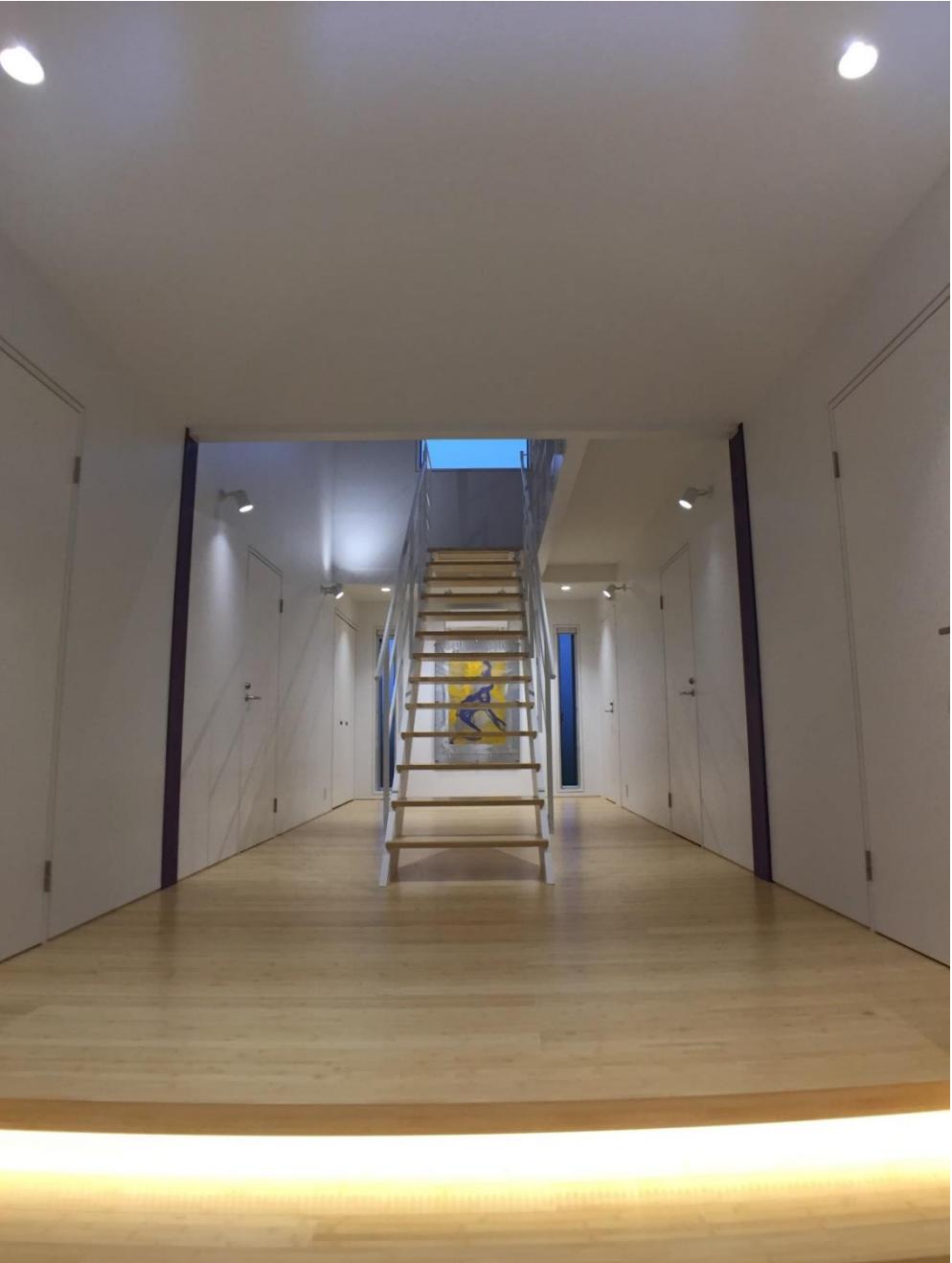
既存寮も白色で塗装し一体化し、オープンテラスや庭園も含め外部空間に物語性をもたらしている。企業敷地の将来全体計画に適合し、開かれた豊かな地域空間創りとなった。



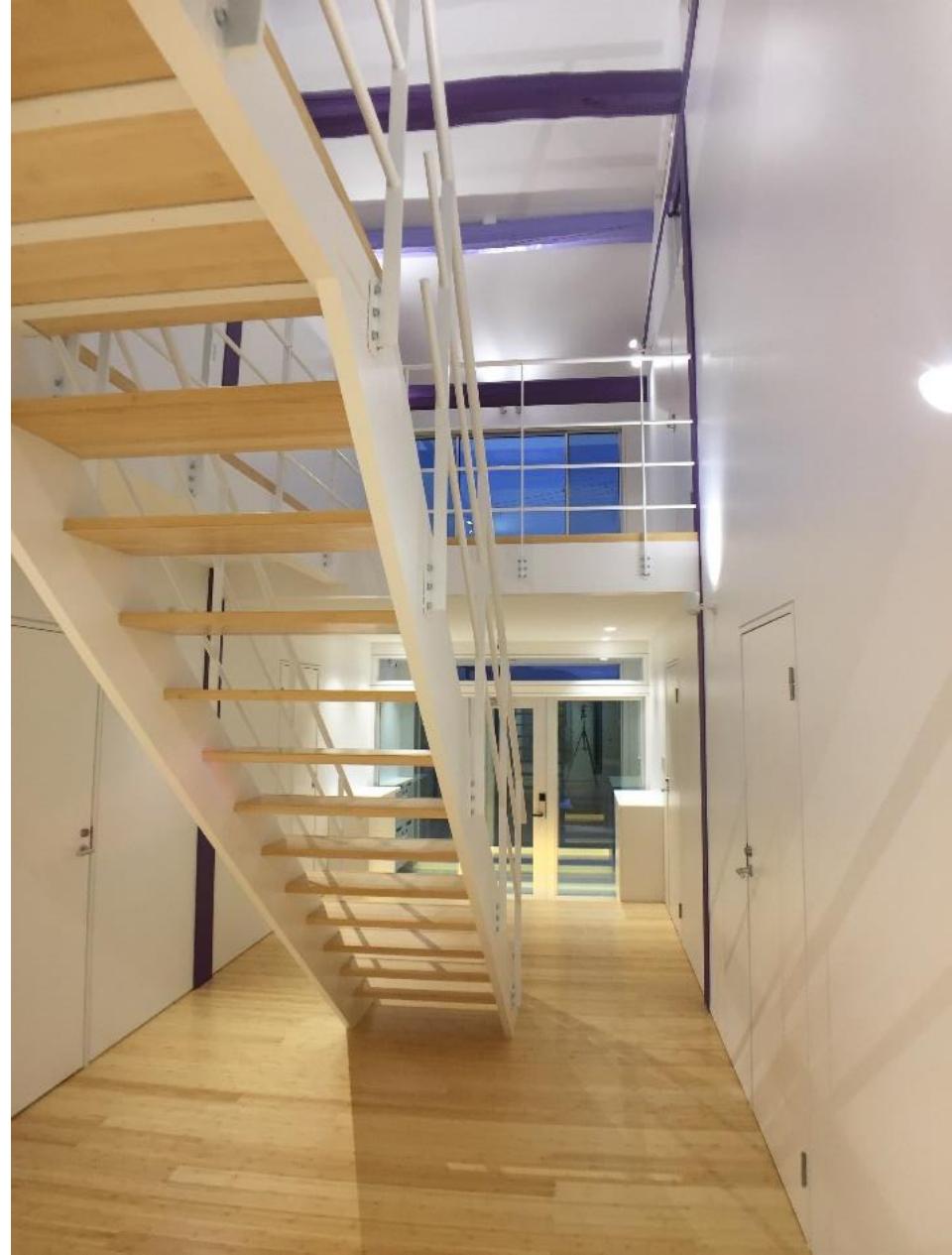
VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL 新館南景

働く従業員の寮、訪問VIP並びに国内外インターのゲストルームである。

1階ワンルーム4戸、2階ゲストルーム2戸の新機能の空間の適用の検討を行い、移築に伴い共同住宅新築の確認申請をした。ブライダルドレス企業であることから内外空間全体の基調色は白色となった。厳冬期の積雪対策等から建築の屋根・外壁は白い鋼板とした。



VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL 新館内観： 1階ホール（コミュニケーションスペース）
北壁面 SILKSCREEN； “SPACE INFINITY” by Toshiroh IKEGAMI



VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL 新館内観： 階段ホール 1階見上げ及び2階
壁；AEP塗装白 床；竹フローリング 茅葺時代墨色梁・大国柱；紫色SOP 切妻時代白木棟木；藤色SOP



VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL 新館内観： 2階 ROOM5 南北内観



VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL 新館内観： 2階 ROOM6 北内観



VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL 新館内観： 2階 ROOM6 南北内観



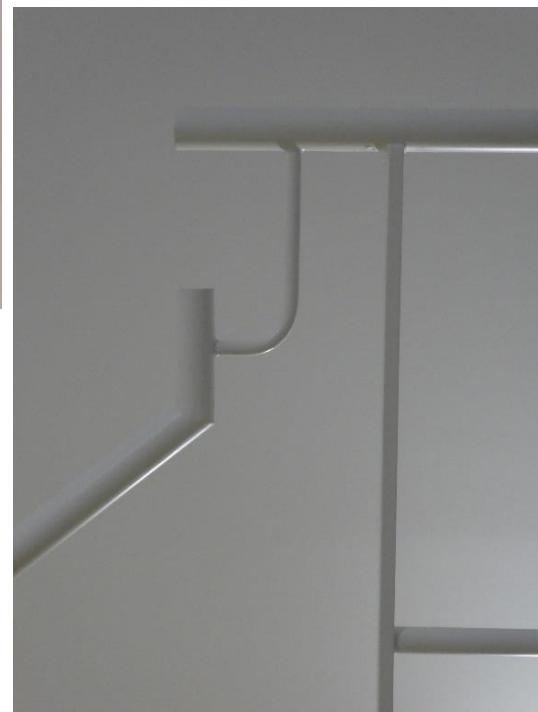
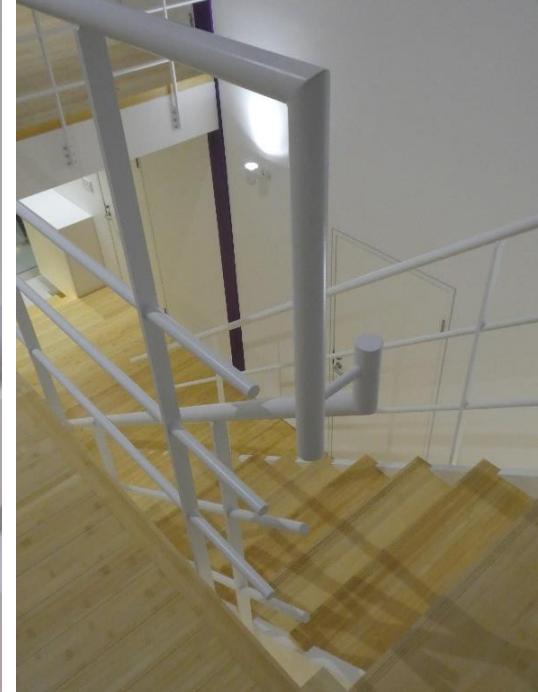
VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL 新館内観： 2階 ROOM6 見上げ



VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL 新館内観 1階ワンルーム住居スペース 約30m²
床；竹フローリング 壁；クロス IHキッチン；W1500 姿見；W900H1800



VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL 新館内観 1階ワンルーム住居スペース 約30m²
キッチン並びに姿見背面；風呂・洗面・洗濯・ワードローブ・トイレ直線配置



VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL 新館内観
階段部詳細；手摺 STΦ34 手摺子 ST32*12



オープンテラス：新旧館を結ぶ。座って話したり、会社イベントへの利用等多目的コミュニケーションスペースとなる。開かれたポケットパークである。



西庭園部：社内イベント利用等を想定している。公開されるコミュニケーションスペースとして設定。

南・北に街路樹の役割も持たせ、5月末—6月始めに白い花が咲くヒトツバタゴを植栽した。ブライダルドレスメーカーであるので、ジューンブライドを意識し、白い花にこだわった。なお東部では、6月に藤色の花の咲くジャカランダの北限開花可能性のささやかな実験も行っている。中心庭石；近隣から調達した石の方向性を読み配置した。





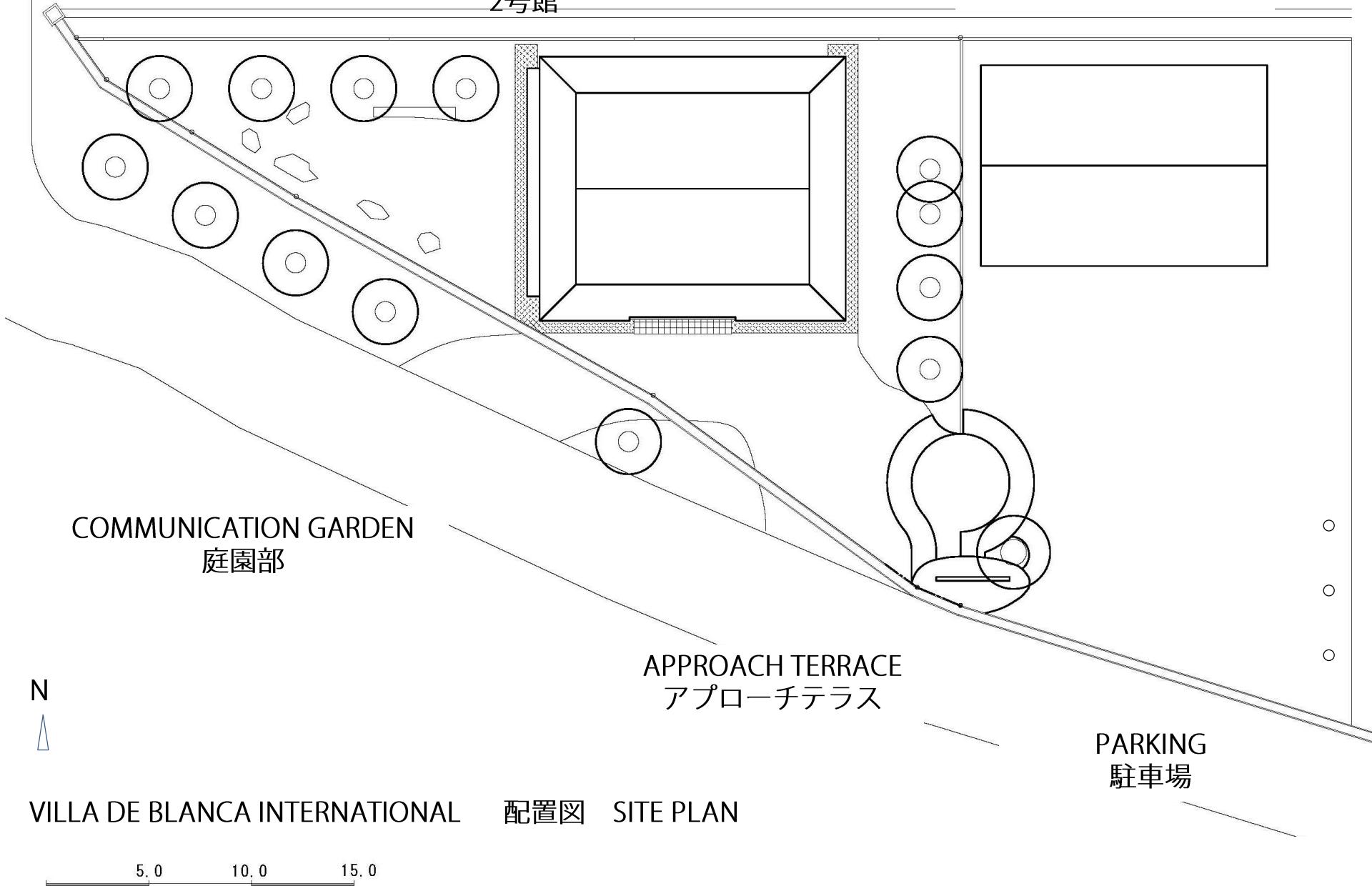
ベンチ；旧家屋の梁である。左写真下部。形状的には魅力あるものであったが、適切な部位が無く建築で使用不可となつた。利用され記憶に残すべくベンチとした。なお左写真上部の梁は、ROOM6の紫色の梁架構となつてゐる。



敷地西端より見る：西庭園部より、東オープンテラスへとオープンスペースが続く。庭園内コンクリート蓋部は、公共側溝である。

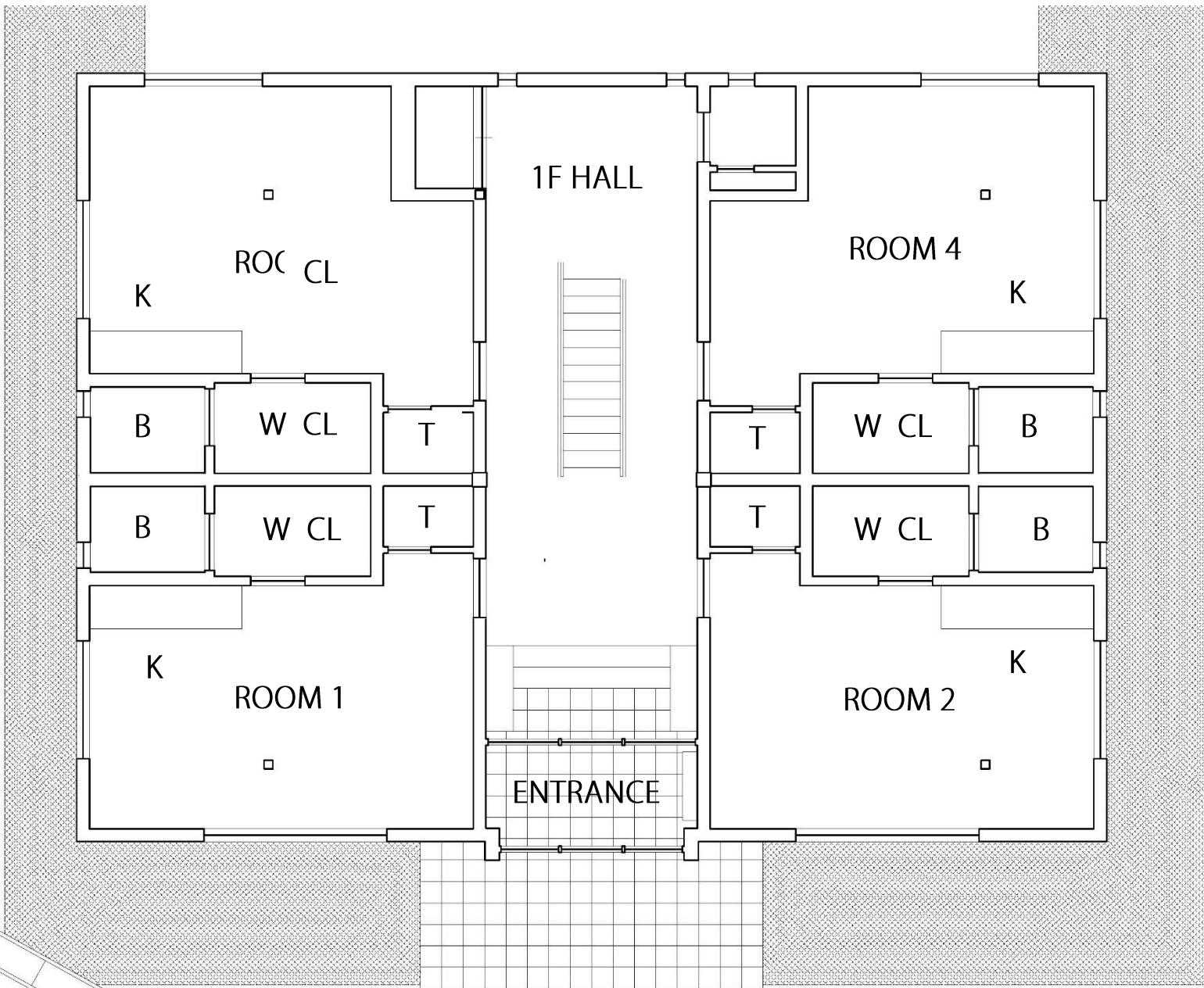
NEW DORMITORY & GUEST ROOM AREA
2nd AREA
2号館

DORMITORY 1ST AREA
1号館

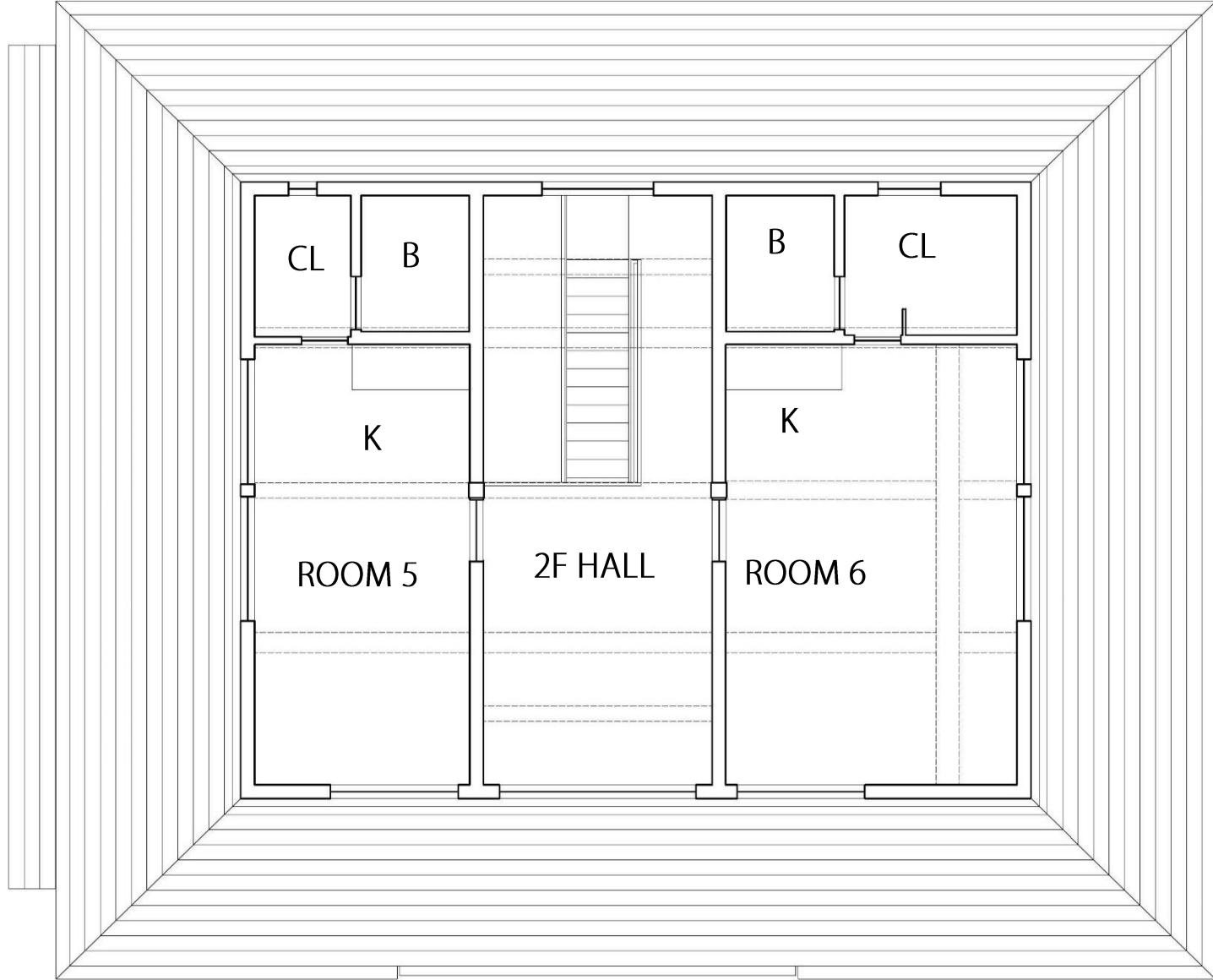


VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL 配置図 SITE PLAN

5.0 10.0 15.0

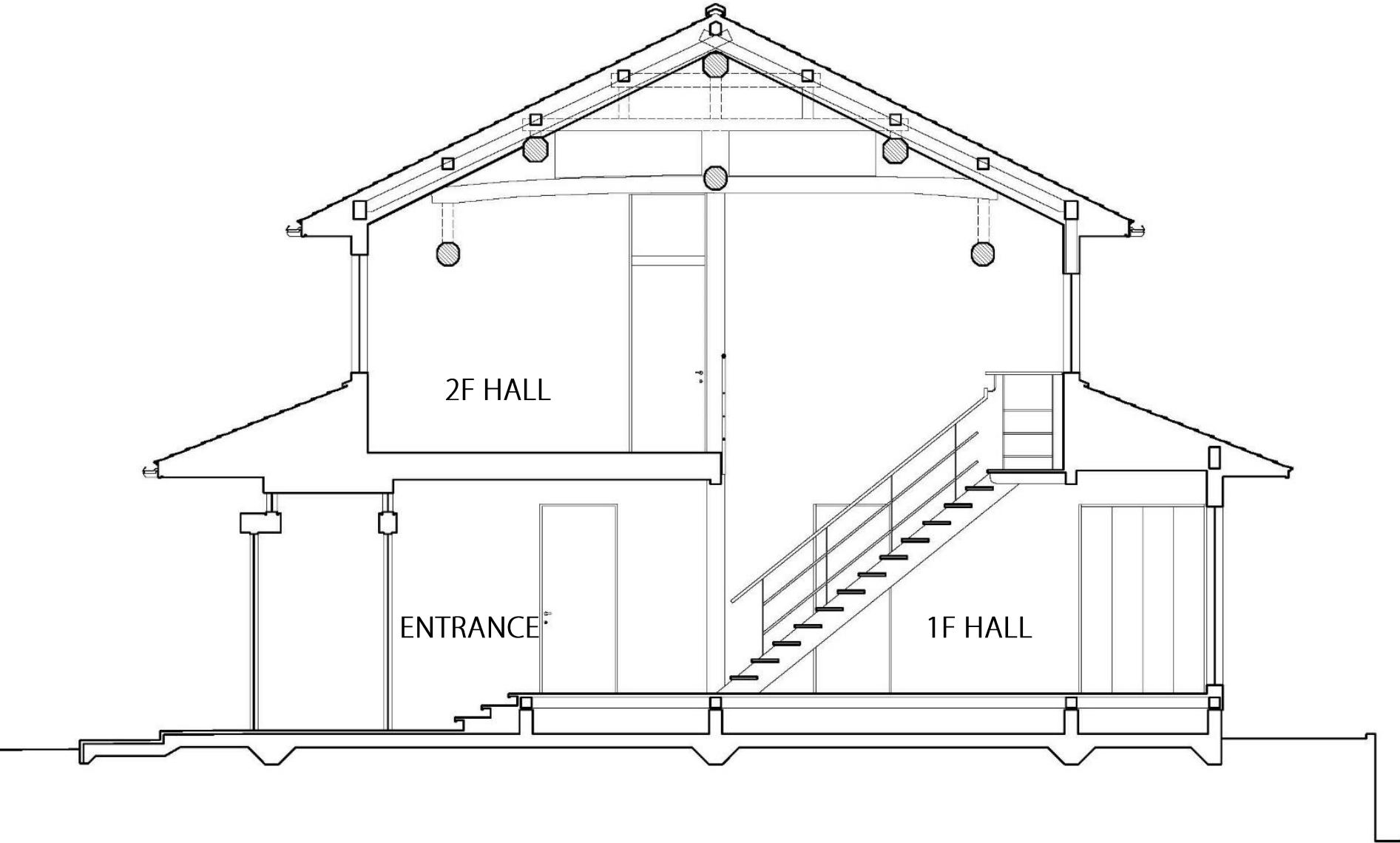


1階平面図 1F PLAN



2階平面図 2F PLAN

1.0 2.0 3.0



南北断面図 SOUTH-NORTH SECTION

1.0 2.0 3.0



1.0 2.0 3.0

南立面図 SOUTH ELEVATION



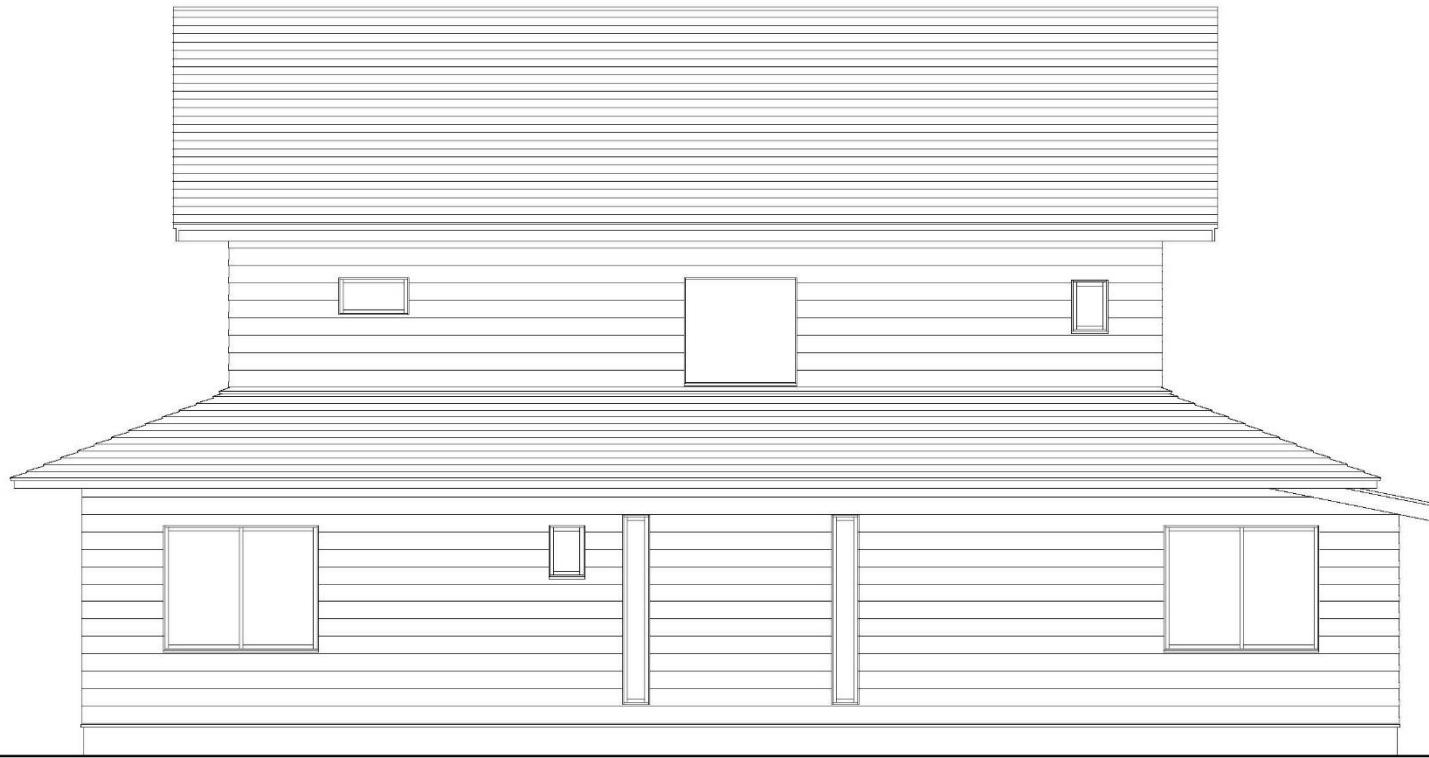
1.0 2.0 3.0

東立面図 EAST ELEVATION



1.0 2.0 3.0

西立面図 WEST ELEVATION



1.0 2.0 3.0

北立面図 NORTH ELEVATION

2：ブライダルの聖地 "WAKASA YUMI BLANCA LAND" 計画 ALPHA BLANCA ST 将来構想2020 及び 既存施設

上位計画 "WAKASA YUMI BLANCA LAND"

ALPHA BLANCA社は1988年に設立され、ブライダルドレスの製造拠点としてALPHA BLANCA STが89年に福井県若狭町（旧三方町）に生まれた。

増設により、1994年通産省グッドデザイン賞を受賞した。国際的デザイナー桂由美先生とともに、ブライダルドレス製造の日本の拠点を築いてきた。

一貫して地域との連携を続けてきた。国際的ブライダルデザイナー桂由美先生によるブライダルショー等を開催している。国内外からの訪問者が絶えない。

数年前より、桂由美先生とともに、ブライダルの聖地 "WAKASA YUMI BLANCA LAND" 計画を進めている。

総合的な製造・研究・開発・アーカイブ・教育の国際拠点化を地域に根差し進行を探る。

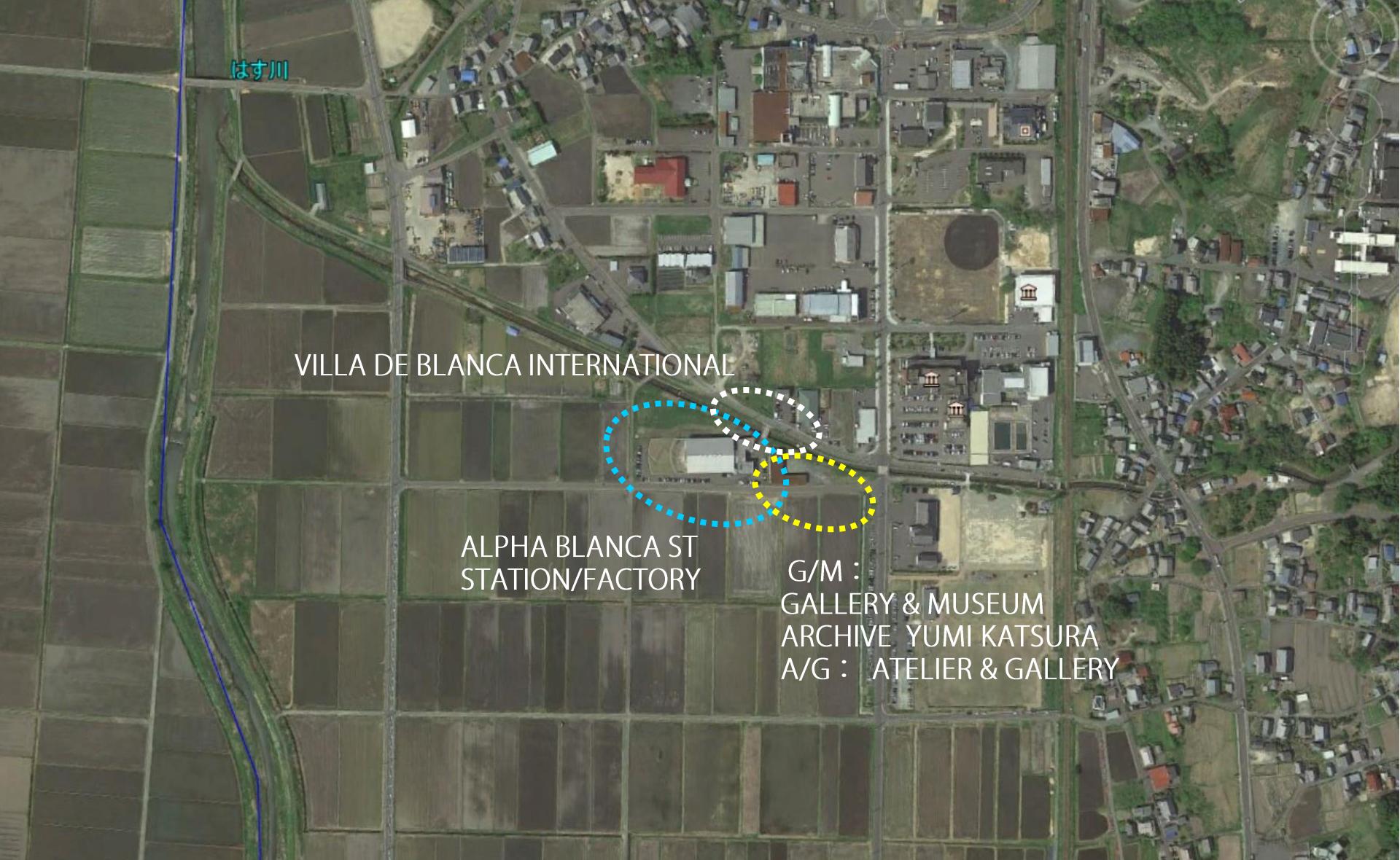
全体敷地には、川・道路の公共空間がある。町の中に町を創る、あるいは企業機能の内外私的空间が公共的に町として機能し、地域に貢献する予定である。

福井県は幸福度日本一である。しかし三方五湖近くに位置する若狭町には、人口1.5万人の町に、300戸の空き家が存在し、地域疲弊回避が探られている。

今回工場スタッフ寮並びに国内外のVIP・インターンのゲストルームを建設するにあたり、国際拠点化を進める上で有効な方法かつ企業の社会的責任として何が可能かを探った。

宿泊・居住環境の向上としての福利厚生視点に加え、地域へ具体的に歴史性を有しつつ未来を志向する内外空間供給の提供を検討した。

結果、町内の良好な未利用古民家を譲り受け移築・蘇生する事、オープンスペースを地域のポケットパークとする方針となつた。



"WAKASA YUMI BLANCA LAND" 計画 位置図

総合的な製造・研究・開発・アーカイブ・教育の国際拠点化を地域に根差し進行を探る。

敷地には、川・道路の公共空間がある。町の中に町を創る、あるいは企業機能の内外私的空間が公共的に町として機能し、地域に貢献する予定である。田畠の中から、きれいだ・住みたい・働きたいまちを創る。ブライダルの聖地としてブライダルドレスの“産地”を目指す。

VILLA de BLANCA INTERNATIONAL
S/W : STAY & WELFARE 居住宿泊・厚生機能

若狭古民家移築蘇生計画

ALPHA BLANCA ST

ST/F : STATION/FACTORY
ステーション 製作工場

S/W

A/G

G/M

町のシンボル

ST / F

MA

MA : MANAGEMENT CENTER
管理センター
インフォメーションセンター
カスタマーセンター

G/M : GALLERY & MUSEUM ARCHIVE YUMI KATSURA
LIBRARY & LECTURE F : FREE SPACE IMAGE WEDDING

A/G : ATELIER & GALLERY A : ATELIER 制作工房
R&D RESEARCH & DEVELOPMENT W : WORKSHOP
T : TECHNICAL ADVISER TR : TRAINING 研修館

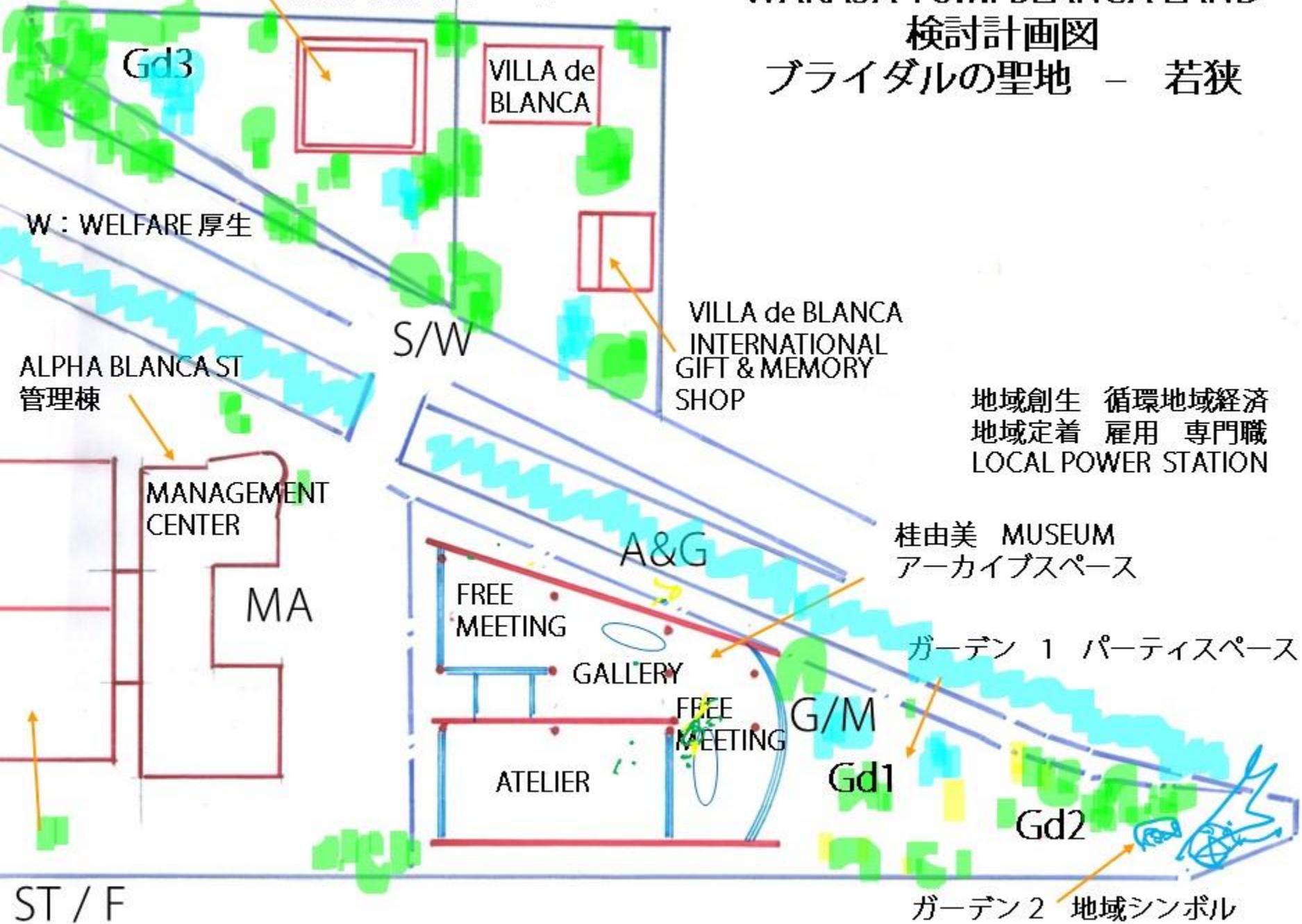
WAKASA YUMI BLANCA LAND計画

STAY : DORMITORY 若狭古民家移築蘇生計画

WAKASA YUMI BLANCA LAND

検討計画図

プライダルの聖地 - 若狭



"WAKASA YUMI BLANCA LAND" 計画と既存施設



ST/F : STATION/FACTORY MA : MANAGEMENT CENTER

VILLA de BLANCA INTERNATIONAL S/W : STAY & WELFARE

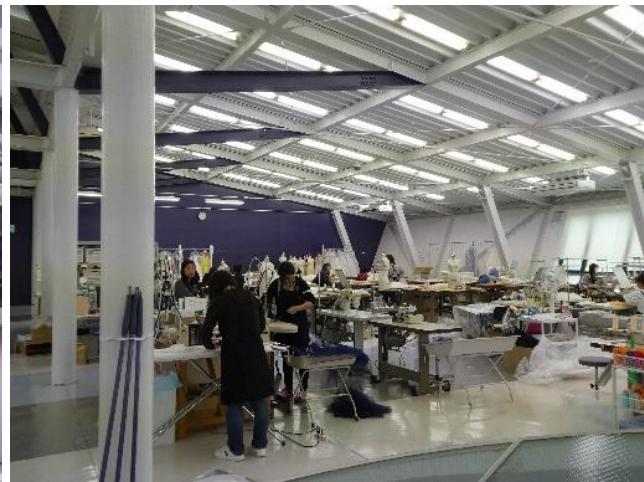


A/G : ATELIER & GALLERY

G/M : GALLERY & MUSEUM



ALPHA BLANCA ST 左写真2点 1994年撮影 右写真2017年撮影



3：若狭町古民家移築蘇生対象建築について

調査状況 及び 対象建築分析・解体・施工

前述のように福井県若狭町には、300戸の空き家が存在し、地域疲弊回避が探られている。

2018年7-8月に、若狭町内外で約30件の候補古民家を調査した。

プロポーションの良好な、建築骨格のしっかりした未利用民家を譲り受けた。130年前に茅葺寄棟屋根建築として創られ、70年前に移築、2階切妻・1階寄棟屋根に替えられた作業所兼住居であった。2階には6畳程度の部屋しか無く、複雑な小屋組の梁が頭上すぐりに展開した。

内部空間は、建築の構成状況を分析し、解体前の豊かな空間を骨格として生かすことを心掛けた。建築全体のプロポーションは基本的に踏襲し、平立断面を調整した。



使用可能家屋調査状況：譲っていただける30数軒の候補民家を訪ねた。集落にしっかりとした民家が展開するが、民家に住民が住まない状態が続く。朽ち果てつつある民家も展開する。山中の孤立した少数住戸の限界集落とはまた異なる、平地の限界集落化の状況である。



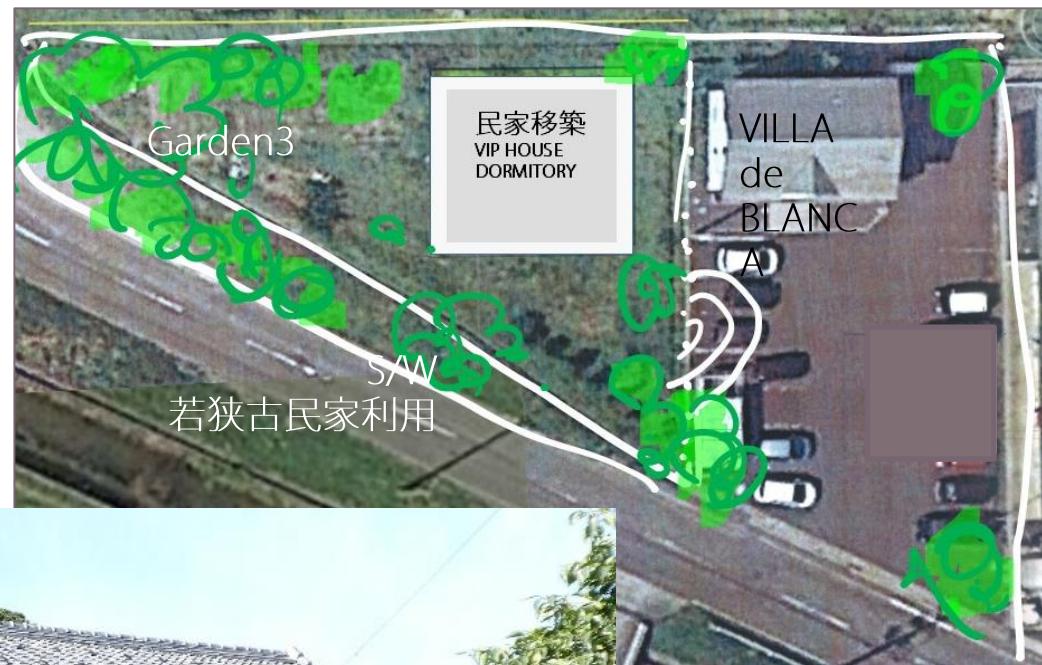
譲渡対象建築：福井県若狭町瓜生地区古民家

photo from google earth

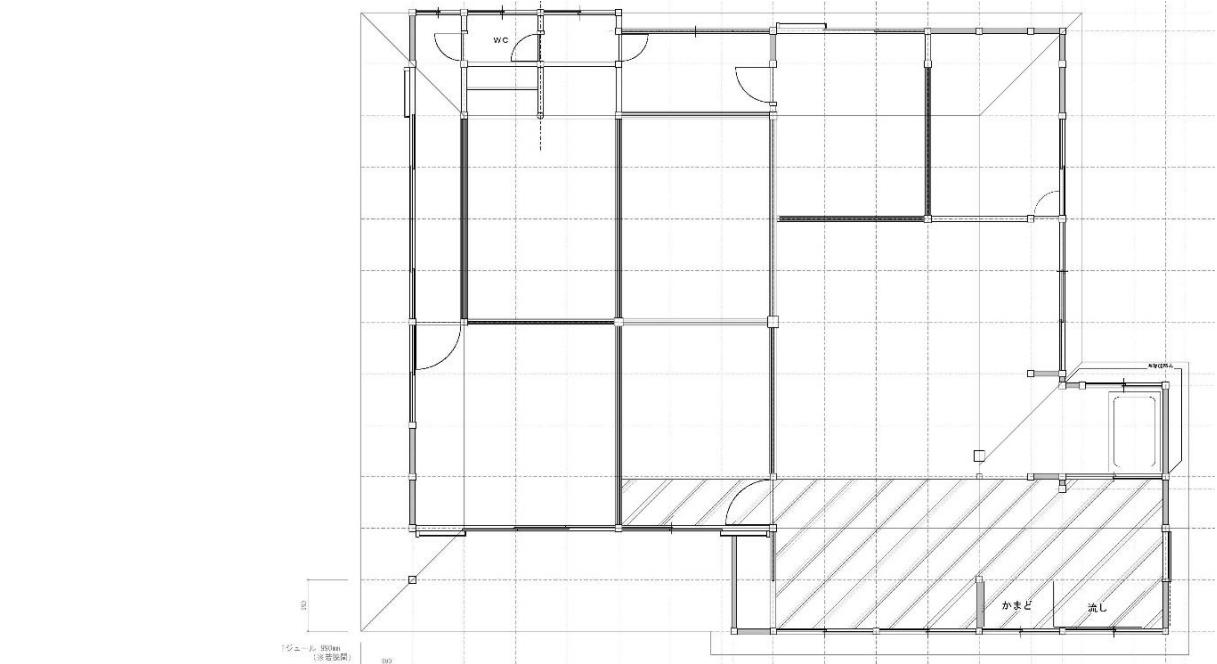
VILLA de BLANCA INTERNATIONAL

若狭町瓜生地区古民家移築蘇生計画

S/W : STAY & WELFARE
DORMITORY & INTERNATINAL GUEST ROOM



福井県若狭町瓜生地区にある古民家を移築し、会社の寮及び国内外のVIPとインターンの宿泊施設とする計画である。古民家は130年の歴史があり、70年前に瓜生地区に移築された。茅葺寄棟屋根形式を、2階切妻・1階寄棟屋根形式に替えた。2階で養蚕が行われた。異なる機能の未来に向けて再度蘇生を進める。



若狭町瓜生地区民家201808：右上：解体前1階伏図
左：2階現況写真；交錯する梁束などの移築対応再秩序付けする。
下：1階現況部分写真。豊かな空間を骨格として生かす。
計画建物は、1階寮は4室。2階ゲストルーム2室、利用者は、国内外の来客及びインターンである。幅広い階層への対処に応える空間として蘇生する。





中間段階検討状況1 1階：各部位に関して1・2階とも。6住戸対応機能との整合・移築後の施工精度の適切性・耐震性能・厳冬期工期厳守などを検討した。

写真撮影10月31日



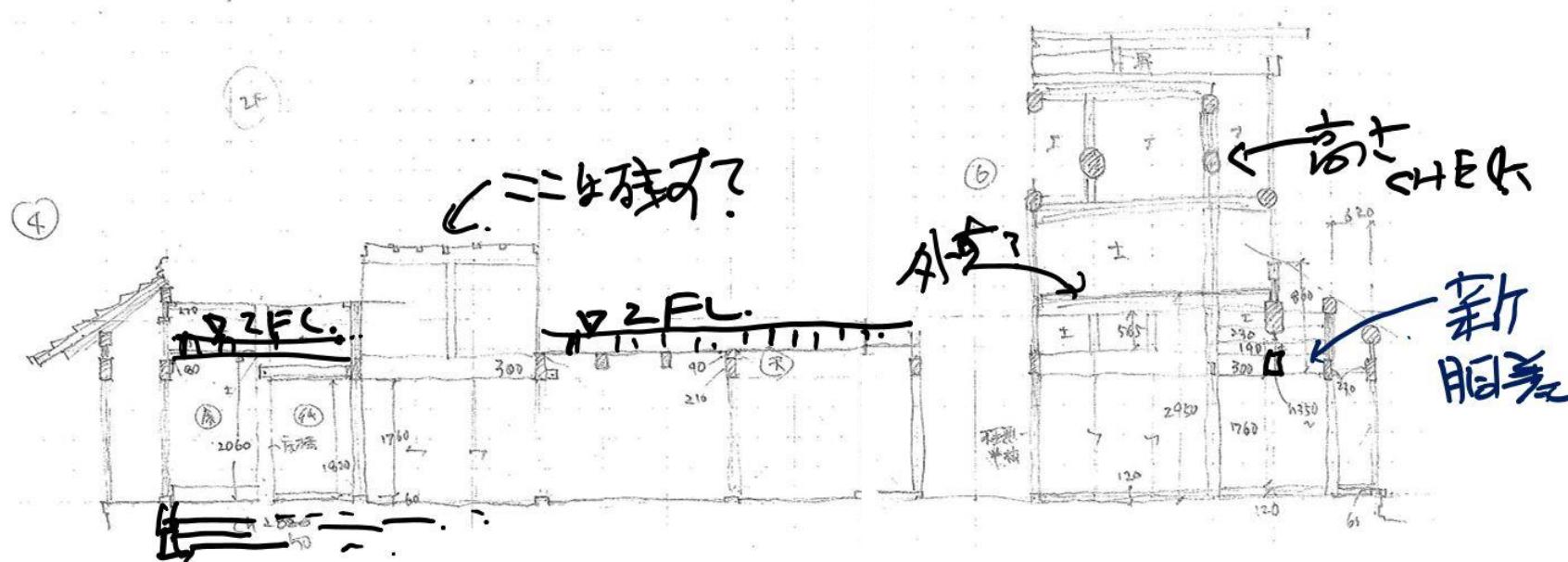
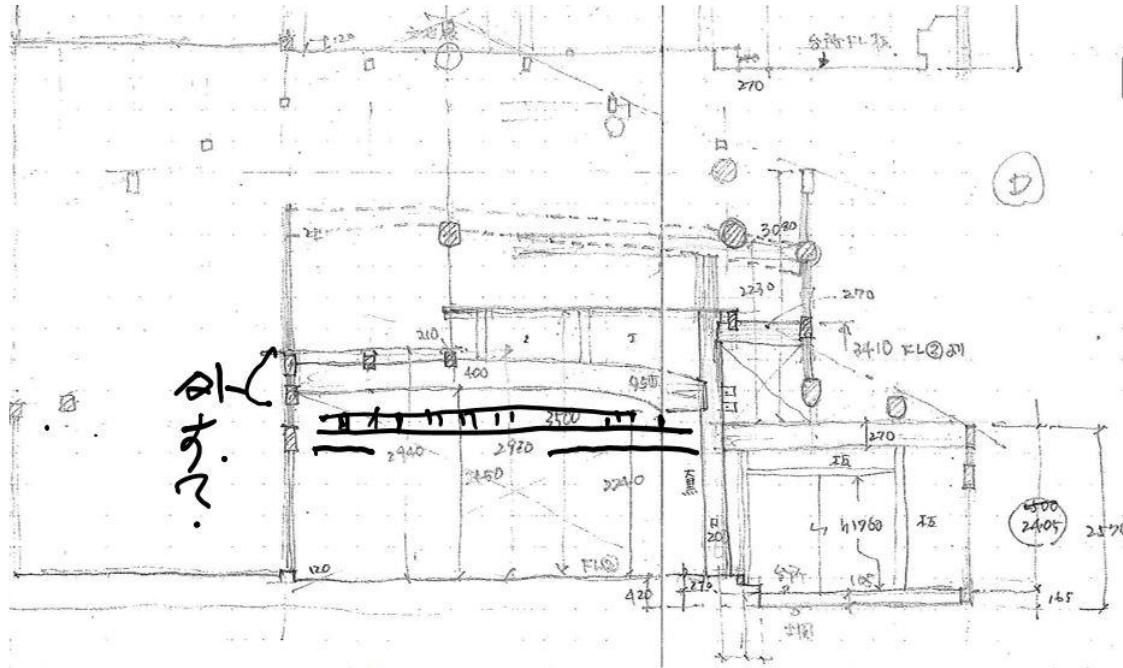
中間段階検討状況2 2階玄関上部：各部位に関して検討した。
施工 株式会社澤村 澤村公也 1級建築士 Be Plan 飛永吉昭 大工棟梁 団建築 団義孝 写真撮影10月31日

福井県若狭町地元関係者の協力を得た。



中間段階検討状況3 1階作業場上部：茅葺時代の黒い柱・梁、囲炉裏が未使用となった切妻時代の木肌の棟木が交錯する。2階床位置・天井の設定・高さ等使用可能とすべく各部位の検討を行った。 写真撮影10月31日

D通り

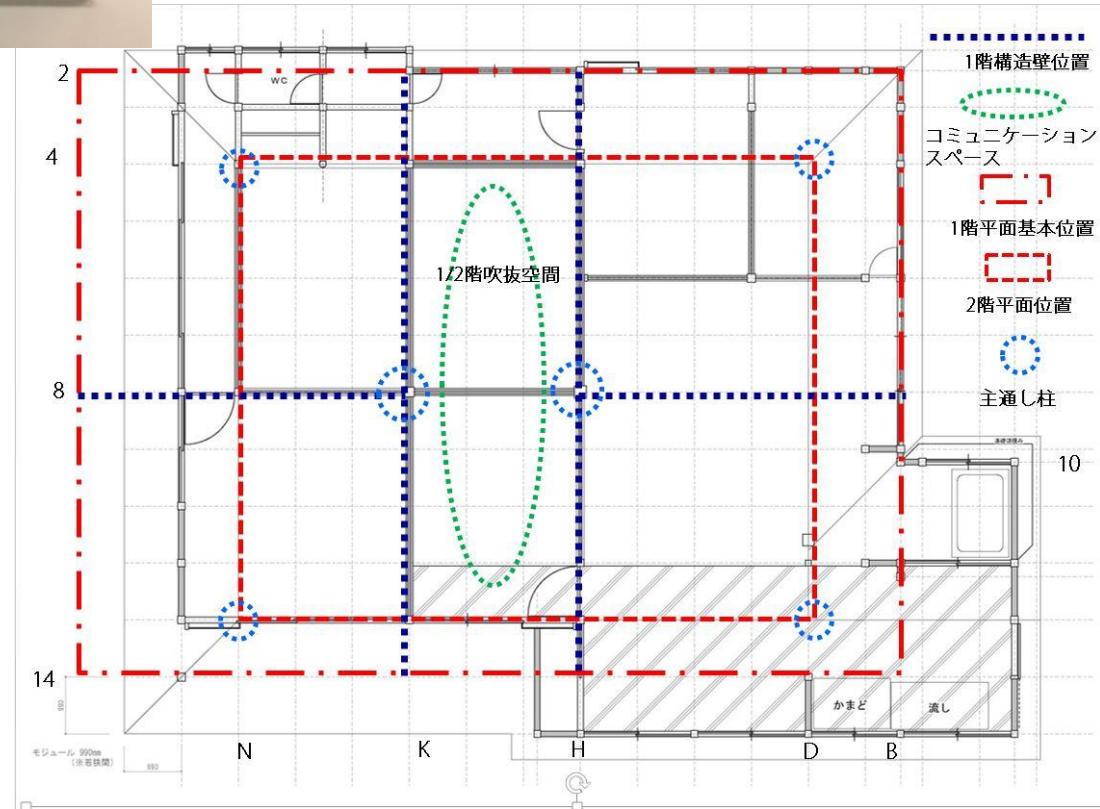


中間段階検討状況4 移築建築断面スケッチに基づく検討：各部位に関して検討した。移築建築断面スケッチ；福井県若狭町1級建築士Be Plan 飛永吉昭 検討書き込み；URBANGAUSS 写真撮影10月31日

新旧建物構成平面図 及び検討モデル：

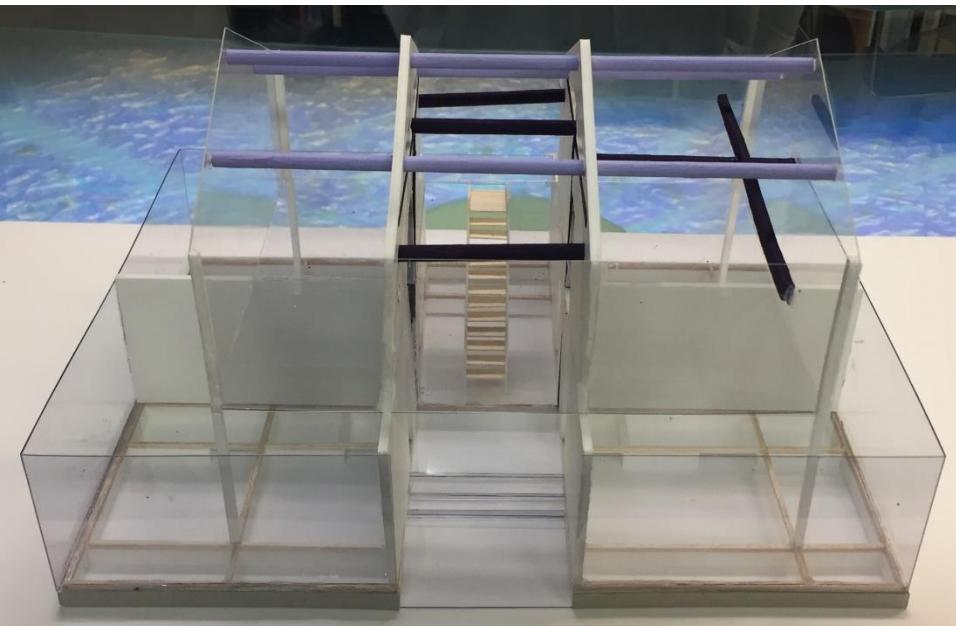
旧家屋は、130年前に茅葺寄棟屋根建築として創られ、70年前に移築2階切妻・1階寄棟屋根に替えられた。構成状況を分析し、1階にワンルーム住居4戸、2階にゲストルーム2戸の新機能に適合する共同住宅新築として確認申請を行った。

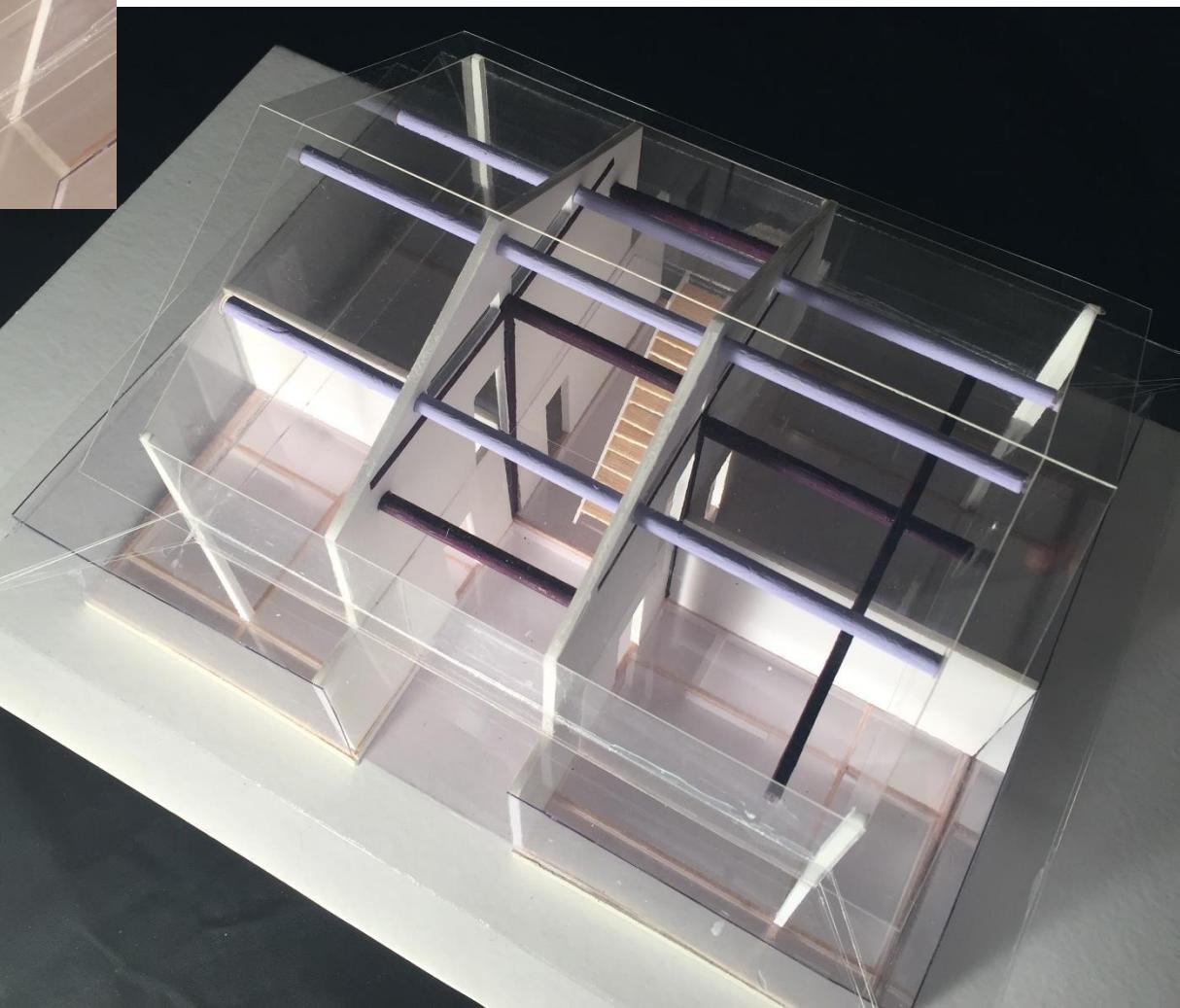
旧大黒柱は、床下370mmで切り、新設大引上に載せた。旧建物階高が低く、調整を行った。



旧建物は1階が住居と作業場である。2階は6畳の養蚕スペースのみがあり、1階の天井上部と複雑な小屋組みが露出されていた。家と作業場の緩衝地帯として玄関土間と象徴的小間があった。

新建物ではこのスペースを階段・吹き抜け空間とし、1・2階をつなぐコミュニケーションスペースとした。1階4室を東西南北に・2階2室を東西に配した。べた基礎を設け、共同住宅としての構造壁を設置し・通し柱を新設した。2本の旧大黒柱を利用し旧小屋組みを支えている。2階平面は旧建物と同じである。1階は、各約30m²の面積を確保し、東部北部は調整し、西側は増加している。2階は屋根形状は旧建物と同一である。1階は四角形平面に調整した。





コンセプト模型：

新建物の空間構成コンセプトを示す。コミュニケーションスペースとなる階段室でもある吹き抜け部の2枚の南北構造壁、1階の住戸界壁である東西構造壁、2階隅角部の新設通し柱が白色である。

茅葺時代からの黒い2本の大黒柱と梁は紫色、囲炉裏が未使用となつた切妻時代の木肌の棟木は藤色に着色した。

完成した現実の空間体験感動の理由を、このコンセプト模型が示す。



若狭町瓜生地区民家解体状况：20181125-1202



べた基礎工事



上棟

移築古材搬入



移築古材設置工事



築130年の古民家の豊かな空間を活かし、現代機能・性能を内外空間で探った。茅葺時代の墨色梁柱束、切妻時代の白木の棟木柱束が、複雑に展開していた。